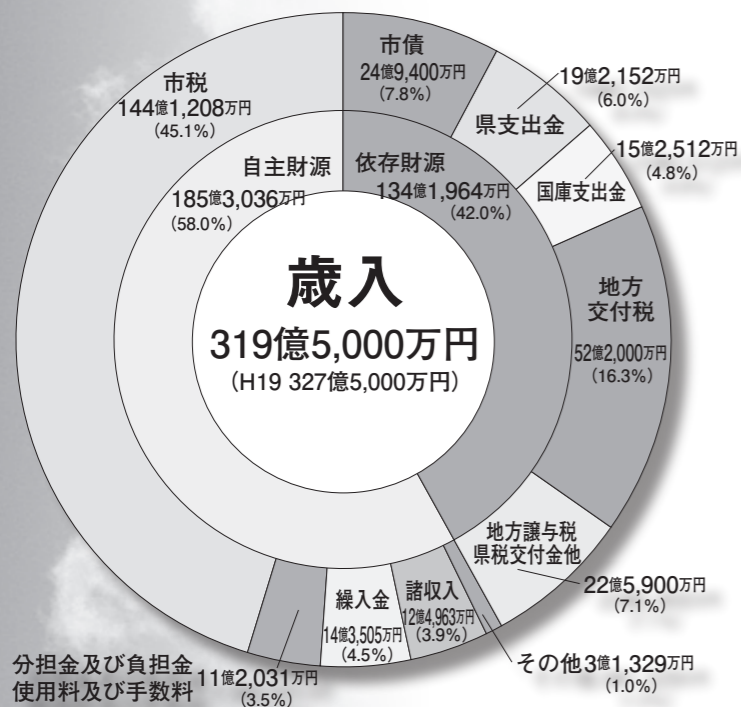


### 平成20年度当初予算

■一般会計	319億5,000万円	(対前年度比△8億円)	△2.4%
■特別会計	206億6,322万円	(対前年度比△53億9,657万円)	△20.7%
■企業会計	57億6,605万円	(対前年度比△10億5,928万円)	△15.5%



**健全財政の確立へ、たくましい財政運営**

地方間競争が激化する現在、本市が持つ魅力を高めると共に、持続可能で強い財政基盤を築くことが不可欠です。

このため、平成20年度は財政基盤の立ち直りを最優先させ、健康福祉や教育など真に必要な施策に積極的な予算配分を行いました。

一般会計では、総額が前年

度と比べると8億円の減となりましたが事務事業の徹底した見直しによりメリハリのある予算編成に努めました。

また、家庭でいう借金に当たる市債は、大型事業等を行う場合有効な手段ですが、ささぎさには必ず返済しなければならず、財政の硬直化の要因となります。

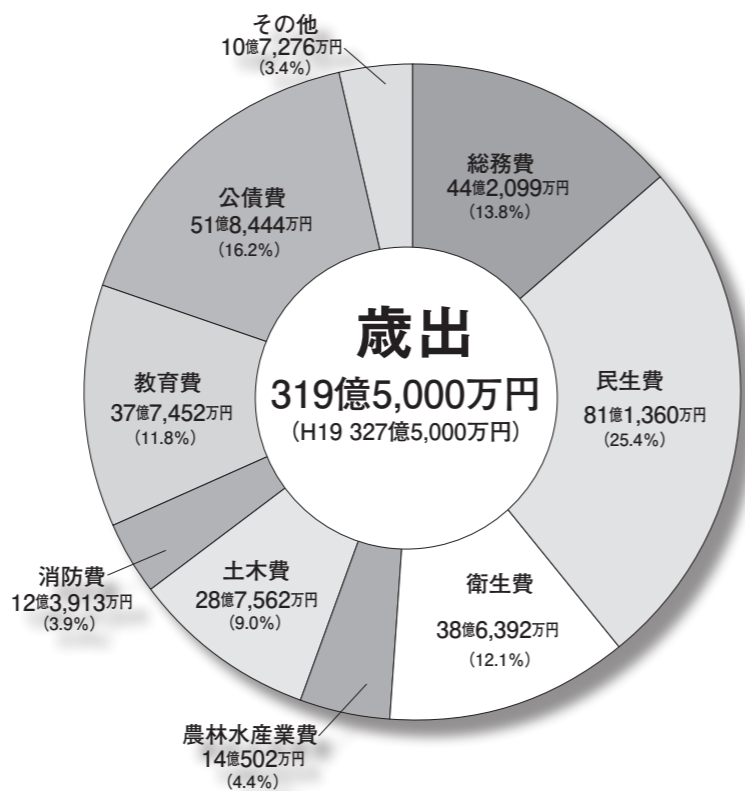
このため、市では残高を増やさないうえ、極力新規の市債の発行を抑え残高の縮減に努めました。

### 重点的かつ効果的な施策について集中と選択を進める

歳入では、企業集積効果による市税の伸びは期待できるものの、地方交付税や、国庫支出金の減少により、市の貯えである財政調整基金を取り

崩して必要な財源の確保に努めました。

歳出では、後年度への負担を強いることとなる市債(借金)を控えるため、建設事業全体を精査し、重要度、緊急度を見極め、確保した財源を暮らしに直結する施策に充当しています。



平成20年度の市の予算が決まりました。国、県の改革が進み、地方分権が加速する一方、交付金や補助金が縮減され、本市も非常に厳しい財政状況のなかで、自立した行政運営に努めなければなりません。

こうした状況のなか、甲賀市まちづくりの羅針盤となる「総合計画」と「行財政改革の実践」により、「協働」による5つの目標の実現に向け、限られた財源を最大に活かし、「負担に値する質の高いサービス」を基本に次代に向けた強くたくましい財政基盤を作り上げながら、子ども、そして、現場を第一主義に置いた予算を編成しました。

### 平成20年度◆甲賀市予算

# 持続可能なたくましい財政基盤の構築



市長 中嶋 武嗣

## 施策方針 要旨

平成20年度予算は、前年度に比べ緊縮型予算となりましたが、決して消極的予算ではなく、財政基盤を立ち直らせることを優先したものです。職員共々にプロ意識に徹して更に知恵と工夫を重ね、予算以上の効果を出し、さらには行革推進部署にマニフェスト進捗管理や全庁的に債権管理の徹底を一層チェックする機能を高めるよう最善を尽くしてまいります。

また、それぞれの事業の予算化については、常識や概念を変えて新しい流れを創り出す努力、さらには行政の守備範囲や住民負担の根本に遡って見直し、費用対効果も含めて事業を検討する一方で、総合計画の基本構想に則り、市民との多様な協働のもとに福祉の維持・向上につながる、

重点的かつ効果的な施策について集中と選択を行ったものであります。

厳しい財政状況下で、健全財政の確立を最優先させていくことこそが、当市の羅針盤となる『総合計画』に示す理念・基本方針・目標の実現のための最善の手法であると確信しており、平成20年度を有徳の精神、すなわち思いやりの心を持って市民と接することをめざす、「こうか 自治創造の年」と位置付け、次代に向けた強くたくましい財政基盤を共に作り上げながら、子ども、そして、現場を第一主義に置き、全力を注いで「負担に値する質の高いサービス」を市民の皆さんに提供してまいります。市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。